

0歳から18歳までの継ぎ目のない共育を実現させよう！

前回のおたよりでは、川根本町が目指す「共育」で大切にしていることは、①主体性を育て②多様性を受け入れ③可能性を信じることとお伝えさせていただきました。

今回は授業を通して、この3つが機能したシームレスな共育とは何かを考えてみたいと思います。

「一人でもみんなでも」一人一人が主役となる学び

私たちは、一人で学んでいても、みんなと一緒に学んでいても、学習の主体は常に個、つまり、一人一人が学びの主人公であってほしいと考えています。



この写真は光の森学園の6年生が外国語の授業で行った、「自分の好きな国を紹介しよう！」の一コマです。子どもたちはタブレットを使って自分の好きな国のことを調べました。それを友達に英語で紹介するのです。

この授業での教師の役割は、外国語を教える存在ではなく、外国語を使った表現力を自ら高めようとする子どもに寄り添い、子どもたち一人一人が学びの主人公になれるように伴走する存在なのです。

川根本町ならではの総合的な学習の時間での学び



この写真は三ツ星学園の総合的な学習の時間の一コマです。

三ツ星学園では7・8・9年生でシームレスなグループをつくり、それぞれのグループが川根本町の良さを生かしたり、課題を解決したりするテーマを設定して探究活動に取り組んでいます。

この日は、川根高校の3年生が来てくれて、三ツ星学園の子どもたちの活動に対してアドバイスしてくれました。

川根高校では「地生学」という地域課題を解決する独自の学習を行っています。その研

究は県内外で高く評価されています。そんな学びを3年間行ってきた先輩からのアドバイスに子どもたちは真剣に耳を傾けていました。このような憧れの先輩とのシームレスな学びは、川根本町ならではの学びです。

今回紹介した2つの学びに見られる共通した特徴があります。お分かりですか？そうですね。先生が教えていないということです。「子供を信じて任せる」シームレスな共育において大切にしたい教師の姿勢だと思います。



第2号も最後まで読んでいただきありがとうございました。これからも川根本町のシームレスな共育について、お伝えしていきたいと思います。

ご意見ご感想をお聞かせください。

E-mail :

k-ishihara@town.kawanehon.lg.jp